

## 中国四国地域における事業計画の認定について (令和7年1月)

平成23年第1回認定以降、総合化事業計画の認定件数は累増し、令和8年3月31日現在で334件となっている。

県名	総合化事業計画														研究開発・成果 利用事業計画	
	認定件数(累計) (注1) (注2)	今回の 認定数	今回の認定計画に使用する農林水産物 (注3)												認定件数 (累計) (注4)	
			野菜	果樹	米	麦類	豆類	畜産物	林産物	水産物	茶	そば	花き	その他		
鳥取	23 (1)															
島根	16 (2)															
岡山	100 (3)															1
広島	42 (8)	1			1											
山口	28 (2)															
徳島	36 (3)	1	1													
香川	24 (1)															
愛媛	36 (4)															
高知	29 (0)															
計	334 (24)	1	1													1

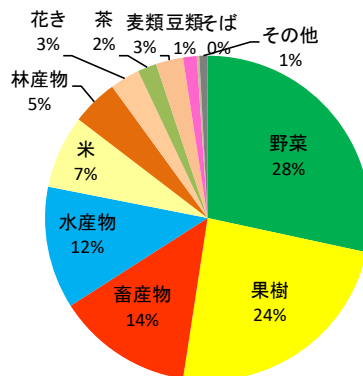
注1 総合化事業計画認定件数(累計)は、事業実施期間が終了した認定を含む。(ただし、事業を取り止めた認定は除く。)

注2 農林漁業成長産業化ファンドの認定件数は、( )書き内数で記載。

注3 複数の農林水産物を使用する事業者があるため、認定数と使用する農林水産物の合計数は合致しない。

注4 研究開発・成果利用事業計画の認定件数は、総合化事業計画認定件数の外数である。

今回までの対象農林水産物の割合



六次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画一覧(令和8年3月認定)

No.	事業名	事業の概要	事業者	都道府県	市町村
			申請者		
1	農事組合法人で生産した米を消費者に直接販売できるよう、冷蔵庫及び店舗を設置し、新たな販売方法の確立と安心安全な農産物の流通の円滑化を図るとともに、地域課題である農業従事者の確保に取り組む事業。	消費者に直接販売できる店舗を整備し、高温期でも米の品質を維持できる保冷庫を併設。 現在のPB(しずか米)を玄米状態で保冷庫に保管し、地域の小口需要に応じて、その都度精米して店頭販売を行う。 ブランドの強化に取り組み、購買先を拡大。 販路として、地域の飲食店に加え、教育機関や、福祉施設等にも直接販売先を開拓。必要に応じ、5kg、10kgの販売にも取り組む。	農事組合法人 高下 代表理事 野崎幸雄	広島県	庄原市
2	自社生産した白瓜等を使用した奈良漬の開発事業(小松島奈良漬プロジェクト)	株式会社白鷺屋では、他社から購入した塩蔵白瓜から奈良漬を製造していたが、自社農場で生産した白瓜、胡瓜を塩蔵し、昔ながらの製法で奈良漬までの二次加工を行う。 奈良漬は、単品瓜奈良漬、胡瓜奈良漬、きざみ奈良漬の多品種の加工に取り組み、消費者への直接販売に加え、インターネット販売等販路の拡大を行う。 また、分解マルチとハンマーナイフモアを用い、作業の効率化と環境に配慮した生産方式を導入。品質の高い白瓜を収穫するため、灌水チューブを利用した半自動水やりシステムを導入し、降雨不足による生育不良を回避する。	株式会社白鷺屋 代表取締役 増田善紀	徳島県	小松島市